

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O.A.A.

★

東亞天文協會

★遊星面課報告 PLANETS 課長 伊達英太郎 (E. Date, President)

1936年の火星報告数は大體前回の報告通りであるが、其後下記3氏の報告があつた。

中野繁氏(東京市雪ヶ谷町) 10糎及20糎反射鏡…………… 5枚
 大柴謙三氏(東京市深川區, 府立化學工業學校) 7.5糎反射鏡…… 2〃
 綿貫博道氏(神戸市林田區) 7.5糎反射鏡…………… 32〃

由て、全部の總見取圖數は314枚となつた。

木、金、土星の見取圖も集りつゝあるが、これは適當な機會纏めて發表する事とする。金星の報告中、瀧田正俊氏の、眼視スケッチと15糎に依る寫眞觀測の比較は非常に興味ある且價值高きもので、同氏の御努力に對し感謝を呈すると共に、今後、此種試みを是非續行され度いものである。

火星木星が15糎以上を要するのに對し金星は、10糎程度で充分價值ある觀測が出來ます。要は極度の忍耐力を必要とする點であります。

★黃道光課 ZODIACAL LIGHTS 課長 山本一清 (I. Yamamoto, President)

西天の黃道光も、もはや此の四月を最後として、急に衰へるだらうと思はれる。しかし、我が日本及び南洋の諸地方は、比較的に緯度が低い關係上、歐米に比べて、まだ々々春宵の觀測は可能性を與へられてゐる。大いに奮つて頂きたい。尙、黃道光帶や、對日照の觀測は、むしろ此の四、五月頃が好條件なのであるから、空さへ曇らなければ、此等の現象を熱心に見守つて貰ひたい。

過去4—5年の間、支那の各地に轉戦中の皇軍の諸勇士から、征戰のあひまに行はれた黃道光や、對日照等の報告を澤山受理し、大に感激した記憶を有つてゐる。——今は南洋の各方面にも、ひろく、陸海の將士たちが新しい大東亞の建設のために奮闘してゐるのであるが、赤道に近い南洋方面は、流星にも、彗星搜索にも、黃道光にも、其の他の諸現象にも、時期を選ばず、極めて恵まれてゐる土地がらである。やがては、ジャワ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、フィリピンあたりからも、いろいろの天體觀測の報告が獲られるだらうと、期待してゐる。又、北滿方面からは特にオリオン座の觀測報告が待望される。

★流星課だより METEORS (124) 課長 小横孝二郎(K.Komaki, President)

四月に活動する主要な流星群は次の通りである。(April Meteors:)

出現期	輻射點	近くの星	備考
四月 5日—25日	$\alpha=210^\circ \delta=-10^\circ$	乙女 κ Vir	火球多し
5日—20日	231 +27	冠 α CrB	1847 I 彗星に關聯
15日—25日	270 +33	琴 κ Lyr	顯著
月 末	291 +59	龍 δ Dra	

以上の中、著名なものは琴座流星群であるが、本年は15日が新月である爲、夜半後の観測には月の妨害がほとんどなく、まさに絶好である。夜の寒氣も漸くやわらいで来るので大方の努力を希望する。

× × × ×

前回報告後の観測報告は殆んどない。次號には新観測者の名簿を載せるつもりである。

★彗星課 COMETS

1942a (ベルナスコ=彗星) 去る二月 11日 21時 (世界時) にイタリアの Bernasconi 氏によつて下の位置 (かみのけ座西南部) に発見された。光度 8m.

$$\left. \begin{array}{l} \text{赤經} \quad 12^{\text{h}} 17^{\text{m}} 47.7^{\text{s}} \\ \text{赤緯} \quad +19^\circ 21' 15'' \end{array} \right\} 1942.0$$

彗星状を呈し核あり、長さ 1° 以上の尾を有する由。毎日の運動は赤經 $-3^{\text{m}}42^{\text{s}}$ (西へ)、赤緯 $-23'$ (南へ)。南西西へ運動してゐる。

赤緯の毎日の運動は最初 $-23'4''$ と報ぜられて我々を驚かせたが間もなく訂正された。光度は上記の如くかなり明るく、二月19日には和歌山の小横氏によつて7.5等級と観測されてゐるが、まだまだ増光する様子である。神田茂氏の計算による軌道要素は下の通り (暫定的な拋物線軌道として)

近日點通過	T	1942年五月1.691日(世界時)
近日點引數	ω	225°.12
昇交點黃經	Ω	340.08
軌道傾斜角	i	100.73
近日點距離	q	1.4214

(分點 1942.0)

1942b (オテルマ彗星) 去る二月 12日 0時 14分 (世界時) にフィンランドの Oterma 氏によつて発見された。その位置は

$$\left. \begin{array}{l} \text{赤經} \quad 10^{\text{h}} 36.8^{\text{m}} \\ \text{赤緯} \quad +16^\circ 49' \end{array} \right\} (\text{分點 } 1942.0)$$

で、毎日の運動は赤經 $-1^{\text{m}}46^{\text{s}}$ (西へ)、赤緯 $+0'9''$ (北へ)。光度 15^{m} ; 彗星状ではあるが尾を認めない由。

以上兩星とも太陽と反対方向に在る。今年に近日點に回歸すべき週期彗星のうち、シプスマン・ワハマン第二彗星は昨秋發見されたが、この他に、マルフ、グリグ・シュレルプ、ラインムト等の諸星が期待される。観測家の努力が願はしい。(本誌第247號第24頁参照)

1941d (フワングント彗星)まだ觀察されてゐる。去る一月19日の東京及知新兩天文臺の觀測によれば、光度13^m、うし座の西南端を徐々に南下してゐる。

★太陽課 SUN

幹事 大石辰次 (T.Oisi, Secretary)

今回會長の命にて太陽課幹事の重任を擔ふ事になりましたので御挨拶申上ます。幸ひ課員諸氏の熱心な御協力と御鞭撻を仰ぎ任を完遂致度く、秋恰も獨り祖國に限らず超非常時にて學術に關しても眞蘊な考を要すると存じます。故に課員諸氏には器械能力を最高度に發揮せられん事を希望します。

黒點概況。一月に於て特筆すべきは昨年十一月8日前後の無黒點日に次いで一月下旬に2日間の無黒點日を見たことであるが、七高天文班は10稯鏡で當日2個を發見されてゐる。10日南半球10度で子午線通過の一群は9日昃掛氏にて46個を數へられ、本月最大の黒點であり本群の最盛時を以て相對數最高と決す可きである。

觀測狀況。木邊部長の觀測可能推定日數は28日で東京の保積氏は29日を見られ、之を裏書して居ります。木邊部長は2830番群又昃掛氏は2175番群まで觀測を進められました。蔡、昃掛、木邊、岩城、加藤の5氏は南北別に、更に昃掛氏は緯度決定の報告を送られて居ります。

課員の消息。木邊部長は御健康の關係で缺測多く御快癒を祈ります。名古屋の加藤氏は本年夏まで都合により中絶の趣ですが、再起を切望します。東京蒲田區の松下淑氏が開始の計畫中で活躍を期待します。七高(岡部外2氏)の詳名は七高學術班天文研究幹事です。なほ大阪の廣瀬辨三氏は去る十二月中旬御〇〇になりました。御健康を祈ります。

御報告の中6個所適宜訂正しました。編輯締切の都合がありますから御報告は月初め至急にお送り下さい。

観測地經緯度 (Locality)

保積 (Hz)	E139°46', +35°41'	坂上 (Su)	E130°33', +31°35'
木邊 (Kb)	E136 1, +35 5	富田 (Tm)	E139 38, +35 37
加藤 (H.K.)	E136 53, +35 11	竹内 (Tu)	E135 30, +34 30
大石 (Oi)	E138 18, +34 47	岩城 (K.I.)	E137 30, +34 43
蔡 (Ss)	E121 30, +25 2	高杉 (Ti)	E139 46, +35 45
前橋 (E.M.)	E135 31, +34 37		

太陽黑點相對數報告 (1942年一月) Sun-Spot Relative Nos., January 1942.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章 Ss (臺北市)	坂上 務 Su (鹿兒島市)	岡部(外2) (鹿兒島市)	前橋榮太郎 E.M. (大阪市)	竹内潤 Tu (大阪市)	木邊成磨 Kb (滋賀縣)	金田伊三吉 Kd (石川縣)	加藤裕成 H.K. (名古屋市)	大石辰次 Oi (靜岡縣)	岩城馨 K.I. (靜岡縣)	沓掛七二 Kk (長野縣)	富田弘一郎 Tm (東京市)	高杉重春 Ti (東京市)	保積善太郎 Hz (東京市)	山田勇次 Yy (東京市)
口径 mm	55	42	130	27	32	75	55	75	55	30	102	40	32	75	75
倍率 x	64	64	71	60	50	60	64	40	64	50	75	32	64	64	80
方法	P	P	P	D	D	D	DP	P	D	D	DP	DP	D	D	D
1	R	C	54	12		65	S	59	M	33	C	38	45	51	M
2	38	74	13	0		M	S	35	23	22	S	23	22	33	22
3	53	C	31	13		M	S	36	34	11	46	22	34	48	M
4	C	R	34	R		M	S	C	26	57	C	36	27	52	26
5	R	58	61	25		70	45	M	63	70	C	31	53	56	40
6	R	82	103	36		M	S	M	30	95	C	26	69	82	M
7	R	M	R	C		R	S	M	C	C	C	R	C	R	M
8	65	M	140	42		64	73	58	55	C	C	50	54	57	M
9	79	M	145	51		M	70	57	55	75	74	?	M	68	36
10	71	M	C	37		71	S	M	54	C	C		57	69	M
11	R	C	C	C		C	S	M	C	C	C		59	61	37
12	R	M	104	C		M	S	M	C	C	C		C	C	C
13	R	M	35	22	35	M	S	M	C	25	M		C	22	C
14	R	M	64	28	44	38	S	M	30	34	35	43	M	36	M
15	R	M	50	27	30	31	S	31	27	22	M	28	33	28	M
16	C	M	29	24		M	23	13	23	22	M	29	22	25	23
17	C	M	13	13	15	11	12	C	13	11	C	M	11	24	M
18	13	13	13	12		M	13	17	14	11	C	14	12	14	12
19	M	M	26	C		22	23	24	22	22	C	M	11	23	M
20	M	M	27	24		M	S	(修	22	22	29	27	22	26	(鏡
21	C	M	C	M	16	M	S	理	C	22	34	29	22	26	面
22	30	M	27	25	16	26	30	中	C	22	31	27	M	25	面
23	47	M	52	C	13	43	S	23	23	22	44	46	M	43	の
24	44	M	C	C		M	S	38	22	46	M	27	40	40	鏡
25	R	M	51	13		M	37	44	25	M	39	M	36	39	銀
26	24	C	?	13		M	S	M	23	M	24	M	M	24	鏡
27	M	C	14	0		M	S	M	12	C	C	0	0	12	中
28	0	C	12	0		M	S	M	0	0	0	0	M	0	銀
29	14	C	12	12		M	S	M	0	0	11	11	0	11	中
30	28	C	20	M		S	S	M	13	11	C	12	0	11	中
31	27	R	R	13		15	12	M	14	11	M	13	14	14	中
日數 Days	14	4	24	22	7	11	10	9	24	23	12	20	22	29	7
平均 Mean	38	57	47	20	24	41	34	39	27	28	34	25	29	35	28

略符號については第246號を見よ。 For the abbreviations, see No. 246.